

多様な専門職の連携による 子育て支援

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに對し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した宝塚市助産師会の取り組みを紹介します。

「宝塚市での子育てが楽しくなる」ことを目指して

兵庫県宝塚市にある宝塚市助産師会は、昭和30年4月の発足以来、同市の母子保健の先駆者として「すべての妊産婦と赤ちゃんのために」という支援方針のもと、新生児訪問にとどまらず、赤ちゃん訪問という生後4カ月までの母子に対する訪問事業を実践してきた。

主な事業は、専門職として産前・産後のケアをはじめ、宝塚市立健康センターにおける母親学級や両親学級、児童館における助産師や栄養士による巡回相談、プレママ・新米ママの

ための講座のほか、小中学校における「生命の学習」の講師などの連携事業を実施している。市全体のスローガンである「宝塚市での子育てが楽しくなる」ことを目標に掲げ、新たな活動を模索しながら、子育てスキルの伝承も大切にしたい支援活動に取り組んでいる。

さらに、宝塚市の産前・産後サポート事業の委託を受け、子育てに関する専門職相談や妊娠中の生活、産後の心身の変化などをテーマにした各種講座を行う「子育てサポートほっこり」を主催している。宝塚市では、さまざまな家事業として地域の居場所づくりに取り組んでおり、そのなかで主に子育て世代を対象とした居場所「きずなの家ほっとサロン」（運営：NPO法人ほっと宝塚子育てネットワーク）を活用し、連携しながら定期的に開催している。

ライフステージにあわせた親子サポートに取り組む

同会は、平成29年度のWAM助成を活用し、「ほっこりみんなで育む宝塚事業」を実施した。同事業は、さまざまな不安を抱える親子に

ひと言

WAMから

宝塚市の産前・産後サポート事業の受託を通じてこれまで把握された子育て世代のニーズを事業内容に反映し、より効果的な支援を行うことができました。講座の開催については助産師だけでなく地域の多様な専門職と連携して事業を実施し、参加者の高い満足度が得られました。行政や地域の専門機関と連携して子育て支援のネットワークを構築されたことを高く評価しています。

對して危機的状況を脱却することを目的に、「拠点づくりをめざす親子サポート事業」と「思春期の子どもと命の尊さ講座事業」の2つを柱として実施した。

助成事業を実施した経緯について、同会会長の藪内悦子氏は次のように語る。

「これまでの活動を通して母親から思春期に向かう子どもに對して、どのように對峙したらよいのかわからないといった相談が増えていることがきっかけでした。そのため、具体的な活動としては、それぞれのライフステージにあわせた子育て相談や体験的学習、各種講座を行うほか、宝塚市教育委員会と連携し、市内の小中学校で性教育を通じた『命の尊さ講座』を子どもと保護者が一緒に受講し、親子のつながりを考えてもらうことに取り組みました。また、助成事業を通して宝塚市子





「体験的学習事業」で実施した農業体験の様子。作物の育ちから生命の尊さを学んだ

収穫した作物を用いた調理実習では、比較的簡単に栄養価の高いメニューをつくり、離乳食から幼児食への移行の悩みの軽減を図った



農業体験や調理実習で 楽しみながら学ぶ

「拠点づくりをめざす親子サポート事業」

ども家庭センターや教育委員会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、NPOなど、多様な関係機関と連携し、地域の支援ネットワークを構築することも目指しました」（以下、「」内は蕨内会長の説明）。

事業の実施にあたっては、家庭裁判所の元調停委員や教育委員会、栄養士会、子ども家庭支援センター、NPOなどの職員で構成する実行委員会を開催し、円滑な事業運営に向けた課題の把握や検討を行った。

では、①体験的学習事業、②「食べる・噛む」ための体づくり講座、③安全・安心の子育て講座、④地域児童館における講座の4項目を実施した。

体験的学習事業は、小学校中学年までの子どもと保護者を対象に、連携する「きずなの家ほっとサロン」の敷地にある畑でサツマイモやトマト、ナス、ピーマンなどを栽培する農業体験を行った。収穫後は、栄養士の管理栄養士を講師にした調理実習を行い、サツマイモとトマトのコンポート（シロップ煮）やピザなど比較的簡単に栄養価の高いメニューをつくり、離乳食から幼児食への移行の悩みの軽減を図るとともに、食による体づくりやカロリーに

関する考え方を学んだ。

そのほか、体験的学習では宝塚市の北部に位置する西谷地域との地域交流を兼ね、日本の伝統的な食材を学ぶイベントを開催した。「西谷地域は宝塚市から車で40分ほどの距離にある自然豊かな地域で、黒豆などが特産品となっています。イベントではJAの職員に協力してもらい、黒豆を使ったずんだ餅や味噌汁などを調理し、子どもたちは米から餅をつくるなど、楽しみながら学べる機会となりました」。

妊婦および乳幼児の親子を対象にした「食べる・噛む」ための体づくり講座では、歯科医師会の歯科医から歯の健康を妊娠中から意

事業概要

平成 29 年度事業

宝塚市助産師会

ほっこりみんなで育む宝塚事業

助成額

398万5千円

【事業概要】

さまざまな不安を抱える親子に対して危機的状況から脱却することを目的に、それぞれのライフステージにあわせた子育て相談や体験的学習、各種講座を行政や関係機関、支援団体と協働して実施する事業



【実施内容】

◆実行委員会の開催

家庭裁判所の元調停委員や教育委員会、栄養士会、子ども家庭支援センター、NPOなどの職員で構成する実行委員会を開催し、円滑な事業運営に向けた課題の把握や検討を行う

◆拠点づくりをめざす親子サポート事業 子どもと保護者を対象に、子育ての不安の軽減や乳幼児の体づくり、保護者の精神的な安定を図ることを目的とした体験的学習事業や各種講座を実施

◆思春期の子どもと命の尊さ講座事業

宝塚市内の小中学校で、性教育を通して子どもの発達に応じた「命の尊さ講座」を開催。子どもと保護者が一緒に受講し、子どもたちが「自尊心」や「他者を思いやる心」を学ぶとともに、保護者が子どもの心身両面の変化と対処法を学校関係者と考えた

◆報告書の作成

事業の活動内容と成果をまとめた報告書を作成し、行政や関係機関等に配布



【成果】

◆拠点づくりをめざす親子サポート事業の参加実績は、農業体験と調理実習を行った「体験的学習事業」（全6回）は延べ115人、「食べる・噛む」ための体づくり講座は38人、「安全・安心の子育て講座」（全4回）は延べ118人、「地域児童館における講座」（全2回）は延べ38人が参加。各種講座は、子育てサポーター養成講座を兼ねており、地域のなかで子育て支援の担い手づくりに取り組んだ

◆「思春期の子どもと命の尊さ講座」は、市内4カ所の小中学校で開催し、延べ544人の子どもと保護者が受講した。保護者の思春期の子どもに対する育児不安の解消と虐待防止のほか、子育て技術の伝承につながった

本事業を実施したことにより、宝塚市子ども家庭支援センターや教育委員会、医師会、歯科医師会、歯科衛生士会、薬剤師会、栄養士会、NPOなど多様な関係機関とのネットワークが構築され、よりきめ細かな対応が可能となった



識した生活等を学ぶとともに、歯科衛生士会の
の歯科衛生士から乳幼児期の歯磨きの指導を
受け、虫歯等の悩みの軽減を図った。

安心・安全の視点から 子育ての不安を軽減

小学校中学年までの子どもと保護者を対象とした「安全・安心の子育て講座」は、健康や生活などさまざまな視点から安心・安全に対する知識を得て、子育ての不安を軽減することを目的に「救命救急」、「小児の疾患と予防接種」、「薬の管理・使用」、「おもちゃの安全基準」をテーマに必要な基礎知識を学んだ。

「救命救急」の講座では、消防署の救命救急士を講師に、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDの使い方や誤飲に対する対応などを学び、実際に起きた危険な事例を紹介してもらった。

「小児の疾患と予防接種」の講座では、アレルギー疾患を得意分野とする小児科医からアレルギーに対する正しい知識や



「安全・安心の子育て講座」では、子育ての不安を軽減することを目的に、「救命救急」（写真左）、「小児の疾患と予防接種」、「薬の管理・使用」（写真右）、「おもちゃの安全基準」をテーマにした講座を開催



情報、スキンケアの方法、予防接種の考え方などについて、「薬の管理・使用」に関する講座では、薬剤師会の薬剤師から薬の保管や使用方法、注意点などについて説明を受けた。また、「おもちゃの安全基準」の講座では、おもちゃは楽しくなるコミュニケーションツールであるにもかかわらず、不幸な事故が起



市内4カ所の小学校で開催した「命の尊さ講座」。延べ544人の児童と保護者が受講した



「児童館における講座」で実施したダンス実習の様子。ひきこもりがちな乳幼児の保護者に対して、子育てのストレスを発散させる場所を提供し、精神的な安定を図った

きるものが少なくないため、品質管理士からおもちゃで起きた事故事例やSGマークの規程、事故防止の対策などについて情報提供を受けた。

そのほかにも、「地域児童館における講座」として、自宅にひきこもりがちな乳幼児の保護者に対して、子育てのストレスを発散させる場所を提供し、精神的な安定を図り虐待を防止することを目的に、市内2カ所の児童館で社交ダンス実習と助産師による育児講座を実施した。

「ダンス実習を取り入れた理由としては、いまの母親は移動も車が中心で運動量が少ないことがあります。社交ダンスは私が習っていたこともあり、楽しく適度な運動は心身両面の安定を図ることができると考え、知り合いのダンス講師に乳幼児を抱きながら踊れるオリジナルプログラムをつくってもらいました。子どもを抱きながら踊るのは危険が伴うことも考えられるため、すべて専門職で対応しており、身体を動かしたあとは助産師による育児講座を実施し、保護者から子育てに関する相談を受けられる体制としました」。

助成期間中の拠点づくりをめざす親子サポート事業の参



「思春期の子どもと命の尊さ講座事業」は、教育委員会と連携した保護者向けの出前講座として市内4カ所の小学校で「命の尊さ講座」を実施した。保護者の思春期の子どもに対する育児不安の解消と虐待防止、子育て技術の伝承を促すことを目的に、子どもと保護者の延べ544人が受講した。

「性教育を通じた子どもたちの発達に応じた『命の尊さ講座』では、身体の成長についての講義のほか、赤ちゃん人形を抱っこしたり、妊婦体験ジャケットなどの体験をしてもらいました。講座を通して子どもたちは自尊心や他者を思いやる気持ちを学び、保護

市内4カ所の小学校で「命の尊さ講座」を開催

加実績（平成29年4月～30年3月）は、「体験的学習事業」（全6回）は延べ115人、「食べる・噛む」ための体づくり講座」は38人、「安全・安心の子育て講座」（全4回）は延べ118人、「地域児童館における講座」（全2回）は延べ38人が参加した。

日頃から子育てに関わる時間の少ない父親にも参加してもらいたいという考えから、講座やイベントはすべて土日に開催したことで、実際に多くの父親が参加することになったという。また、各種講座は子育てサポート養成講座を兼ねており、受講者が地域のなかで子育て支援の担い手となることを目指した。

子育て支援のネットワークを構築

宝塚市助産師会

会長 藪内 悦子氏
(助産師)



平成29年度のWAM助成を通して行政や専門機関、支援団体との支援ネットワークを構築することにつながり、当会だけでは対応が難しい活動にも協力してもらえ体制ができたことは大きな成果となりました。

このような協力関係を築くことのできた要因として、宝塚市の各専門機関は子育て世代をきちんと支えなければ、高齢者の介護が成り立たなくなるという共通認識をもっていることが大きいのではないかと思います。

また、専門機関と連携体制をつくる秘訣は、それぞれの専門職同士が互いに尊重して「互いに頼れるところは頼る」ということです。実際に助成事業ではさまざまな講座を開催し、助産師である私が講師を務めることも可能でしたが、互いの専門領域を尊重することが協力関係をつくるうえでは重要だと感じています。

◆団体概要

〒665-0033 兵庫県宝塚市伊子志 3-10-12
TEL: 0797-76-3346
URL: <https://takarazukamidwives.wixsite.com/mama-baby>

設立: 昭和30年4月
会長: 藪内 悦子



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）

TEL : 03-3438-4756 FAX : 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）

TEL : 03-3438-9942 FAX : 03-3438-0218 (共通)

連携体制を構築しより細かな対応が可能に

助成事業の成果として、さまざまな不安を抱える親子に対し、それぞれのライフステージにあわせたサポートを行うとともに、行政や関係機関と支援ネットワークを構築することができたことがあげられる。

「もともと、当会は医師会や歯科医師会と良

者は思春期を迎える子どもの成長を知り、「心身両面の変化」とその対処法を学校関係者とともに考えました。子どもと保護者が一緒に受講することで、親子のつながりを見つめ直すきっかけにもなりました」。

そのほか、助成事業では、親子サポートの必要性や活動と成果をまとめた報告書を作成し、行政や関係機関、連携団体、学校関係者に配布した。

好な関係にありましたが、助成事業を通じてこれまであまり接点のなかった薬剤師会や栄養士会と連携し、宝塚市の子育て支援に関するネットワークが構築できたことは大きな成果だと感じています。何でも協力しあえる体制があることで、当会だけでは対応が困難なケースでもよりきめ細かな対応が可能となっています」。

地域の多様な専門機関と連携し、さまざまな不安を抱える親子の子育て支援体制を構築する同会の取り組みが全国に広がることが期待される。

NPO等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします!

当機構では寄付金を募集しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

